

いよいよ!!
平成23年 **3.19**

シーズン幕開けに向けて

園長 小松 守

今年の秋田はいつになく雪が多く、その分、雪の動物園のタイトルらしい冬が続いています。3月19日は大森山動物園、シーズンの始まりです。「動物と語らう森」をテーマに設定し3年が経ちました。様々な動物を見て憩い、じっくり観て不思議を発見する場が動物園ですが、人と同じ動物の「いのち」と出会う中、時に「いのち」と「こころ」がシンクロナイズできるのも動物園かもしれません。大森山動物園にいらっしゃるお客様を見ていると、動物と何やら会話しているように思えることがしばしばです。無論、動物は言葉を発しません。しかし、お客さまは時に動物を友とし、お話をしているようにも見えます。日本人には西洋とは異なった特有の自然観、生命観があり、自然、生き物、人が一体化するような深層意識があると言われます。動物園にいらっしゃるお客様にも、どこかそんな雰囲気を感じられます。大森山動物園の「動物と語らう森」のテーマは、動物たちとほんわかと同化できる動



物園でありたいな、との思いから出たものです。今シーズンも「いのち」をより身近に感じられるような工夫を凝らしていきたいなと思います。

一方では、動物たちの「いのち」のつながりは、自然界あるいは動物園界でも危うい状況が進んでいます。生物多様性が失われ、種の絶滅が加速する状況は、洋の東西を問わず地球規模でのことです。大森山動物園では、アムールトラなど希少な動物園動物の種保存に止まらず、イヌワシやゼニタナゴのような日本産の希少動物の種保存でも国内での先駆的な役割を果たしています。「いのち」をつなぎ、そして自然にも「いのちのつながり」の思いを広げていける動物園をめざしてまいります。卯年の今年、天候も社会情勢も激動した昨年の虎年から一転、やさしく、穏やかな中にも、飛躍の年でありたいものです。今シーズンもより多くの皆様のご来園をお待ちいたしております。

2011卯年

秋田の
ウサギ

参事 千葉 克己

大森山動物園で飼育しているウサギの中で、他を圧倒するほど大きな体格なのが「中仙ジャンボウサギ」の太(ふとし)です。太は、現在体重約6kg程ですが、これでもジャンボウサギとしては小兵の部類で、過去の飼育例では8kgに届く個体もありました。

中仙ジャンボウサギは、明治時代後期に現在の秋田県大仙市中仙地区で、大型化のための品種改良が行われたことに由来するとされています。体重10kgを超えた記録もあるほどの大型品種です。同地区では毎年秋に「全国ジャンボウさぎフェスティバル」を開催し、大型品種の継承や普及に力を入れています。

また、現在当園では飼育しておりませんが、中仙地区に近接する秋田県美郷町千畑地区には、やはり明治時代に作り出された「畑屋ウサギ」という品種がいます。こちらは体格の大きさもさることながら、長い耳と赤い目、白くきれいな毛並みなど、均整のとれた美しい姿を特徴としています。畑屋ウサギも地域の祭りに登場したり、モチーフとして町の広報や特産のお米のPRに使われるなど、地域興しに一役買っています。

中仙ジャンボウサギと畑屋ウサギは、どちらも日本白色種秋田改良種という品種で、系統として中仙系、畑屋系があるというのが正式な分類なのかもしれませんが、中仙ジャンボウサギが日本一の大型種なら、畑屋ウサギは秋田美人ウサギといえるでしょう。

卯年の機会に、私たちも全国に誇るべき秋田に根ざしたウサギたちのことを伝えていきたいと考えています。

今年
わたしたちの
年だよ!



中仙ジャンボウサギの「太」



あそびに
来てね!

体重約3kgの
垂耳ウサギと
並んだ「太」(左)



ジャンボウさぎフェスティバルから
秋田県大仙市中仙地区観光協会提供



畑屋ウサギ 秋田県美郷町提供

はじめまして!

移動動物紹介

元気でね!



コウノトリ

♂ 2001年4月18日生まれ
♀ 1995年5月29日生まれ
2010年11月17日に多摩動物公園よりコウノトリのペア二羽を導入しました。

コウノトリの導入意義について

動物園でのニホンコウノトリの飼育は今や展示に止まらず野生復帰(生息域内保全)も重要なテーマです。しかし、繁殖動物園はまだ数園に限られています。今回の新ペアで日本初の雪国での繁殖をめざします。

ヨツユビハリネズミ

♂ 生年月日不明



2010年12月29日に男鹿水族館GAOより来園しました。

アフリカタテガミ
ヤマアラシ「ペロ」

♂ 2009年9月9日生まれ



当園で生まれたペロは井の頭自然文化園へ、2010年9月30日に無事搬出されました。

訃報 おわかれ

必ず生き物は、お別れする時がやってきます。死亡した動物の一部を掲載します。ご冥福をお祈りします。

トナカイ(キリカ♀)



2010年10月29日に、第四胃食滞により死亡しました。オスのカイオウとの子供が期待されていたのでとても残念です。

ビーバー(モリコ♀)



2010年8月5日に、胃炎等により死亡しました。双子の子供を一生懸命育てたお母さんでした。



ベニコンゴウ
インコ(♂)

2010年7月18日に、肺炎などにより死亡しました。